

第4回アジア域の化学輸送モデルの現状と今後の展開に関する研究集会

日時 2020年2月21日(金)午後～22日(土)午前

場所 九州大学応用力学研究所 多目的研究交流室W601

プログラム

21日(金)午後

13:30 趣旨説明 鶴野 伊津志(九州大学応用力学研究所)

13:40 櫻井 達也(明星大学)

AISを用いた船舶起源排出量算定と観測に基づく不確実性評価

14:05 嶋寺 光(大阪大学)

瀬戸内地域の気象・排出特性が大気汚染に及ぼす影響の評価

14:30 山地 一代(神戸大学)

WRF/CMAQを用いた広域大気質濃度の評価

14:55-15:25 休憩

15:25 永島 達也(国立環境研究所)

日本における気温と地表オゾン濃度の相関

15:50 板橋 秀一(電力中央研究所)

CMAQによる成層圏オゾンモデリング：現状と課題

16:15 菅田 誠治(国立環境研究所)

大気汚染シミュレーション支援システムの開発について

16:40 早崎 将光(日本自動車研究所)

ドローンを用いた気温逆転層形成時の大気汚染物質の鉛直分布観測

22日(土)午前

9:00 斎藤 正彦 (愛媛大学)

関東地方における冬季 PM_{2.5} のプロセス解析

9:25 茶谷 聡 (国立環境研究所)

PM_{2.5}成分自動測定結果に対するモデル再現性の相互比較と発生源影響評価

9:50 浦西 克維 (大阪大学/奈良県くらし創造部景観・環境局)

中国東北部のバイオマス燃焼由来の PM_{2.5} 越境汚染に関する大気質モデル解析ー
2019年3月北海道における PM_{2.5} 高濃度汚染事例ー

10:15-10:30 休憩

10:30 森野 悠 (国立環境研究所)

数値モデル・室内実験・大気観測に基づく有機エアロゾルの発生源解析

10:55 鶴野 伊津志 (九州大学応用力学研究所)

最近の PM_{2.5} の年々変化とパラダイム・シフトの可能性

11:25-11:55 議論・総括